

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970500516
法人名	社会福祉法人 寿ノ家
事業所名	寿ノ家 グループホーム
所在地	山梨県笛吹市石和町四日市場 2031
自己評価作成日	令和 3年 10月 20日
評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和3年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>平均年齢が90.2歳となっており、介護度も上がってきている中、グループホームらしさや本人の出来る事が継続してできるような取り組みをしている。 ゆったりとした生活環境に心がけ安心して暮らしていけるように日々努めている</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>○法人組織の事業実践重点目標として、「利用者、地域、職員、経営の満足度を高める」を掲示し、また、法人グループである地域の基幹医療機関(甲州リハビリテーション病院等)の理念として、「心をこめて、保健、医療、福祉で地域貢献」の明示のとおり、多種の福祉事業、医療機関を経営し、多職種連携によるチームケア、専門的観察、評価分析による個別ケア支援を展開しています。また、地域への取り組みとして、法人に専門ボランティアコーディネーターを配置し、ボランティアの積極的な受け入れ体制や地域行事、イベントの情報を把握し、各事業所に提供しています。地域との相互支援関係構築のための取り組みを進めています。</p>

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: 寿ノ家 グループホーム

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については年度初めに職員研修もあり、目的や目標について確認している。 年度の事業計画についても周知されており事業所の理念に沿って職員一人一人が個人目標を設定し取り組んでいる。	○法人組織として、年度当初に組織の理念・使命についての全体研修会が定期的に行われて、理事長から理念に関する講話があり、事業所内での伝達研修も実施されて全職員の周知共有に取り組んでいます。「心をこめて一人ひとりを大切に」という簡潔でわかりやすい理念ということもあり、職員等の周知度は高いことが伺えました。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナの影響で地域の方との交流ができていない。	○地元石和町四日市場の隣組に加入し、組活動の河川清掃に職員が出動し、公民館行事には利用者・職員が積極的に参加して、また、隣接の法人のホールを地域に開放して地域交流を積極的に展開しています。現在は、コロナ禍で地域交流は自粛制限して困っているとの管理者コメントがありました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が気軽に立ち寄れる場所の提供はしているが、コロナ禍ということもあり実施できていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の運営推進会議において5月と7月に実施し、事業内容や課題について相談や報告をしている。 9月においては新型コロナの影響もあり開催できていない。	○運営推進会議は、本年度はコロナ禍で左記のように年2回開催されています。会議には、理事長、隣接同法人の3事業所の管理者及びボランティアコーディネーターもメンバーとして出席し、組織としての積極的な取り組み姿勢が伺えます。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において笛吹市の長寿介護課の職員が毎回出席してくださり相談や協力体制が築けている。	○市の担当職員は、運営推進会議に委員として毎回出席し、情報の共有が密に行われて、また、管理者がリスク等の報告や相談等を細目に行い、連携協力体制が培われています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指針基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人に委員会が設置されているため委員が中心となって職員研修も開催している。	○身体拘束をしないケアについては、組織としてマニュアルが整備され、法人の身体拘束・虐待対策委員会の研修計画の中で、各事業所が2か月に1回研修会を実施し、全職員の周知徹底に努めています。玄関等の施錠についても、防犯のために夜間帯のみの施錠にしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人に委員会が設置されているため委員が中心となって職員の意思啓発に取り組んでいる。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の全体研修等で学ぶ機会を設けている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居については都度、疑問・不明点・説明をし理解を得ている。			

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: 寿ノ家 グループホーム

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で面会の制限があるため、ご家族には電話での聞き取りをおこない意見を伺っている。	○運営に関する家族の意見・要望については、家族カンファレンスや面会時に把握したり、リモートでも意見・要望を聞くように努めています。運営に反映させた意見や要望は今のところないとのことでした。利用者については、重度等の特性により適切に聞き取ることが難しいとの管理者コメントでした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半期に一度職員面接を位置づけており、意見発信や収集の場となっている。 また、毎月のミーティングの中で意見や提案をしながら反映している。	○組織として、人事考課制度の目標管理を導入していて、年2回個別面談を実施し、また、毎月1回のミーティングやスタッフ会議で職員の意見や提案を把握して、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況等については、随時代表者へ報告する体制となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が法人全体研修やステップアップ研修において学習できるような機会を設けている。 また、毎月のミーティングにおいて職員が講師となり認知症についての勉強会をしスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は新型コロナで交流が出来ていない。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたってはご本人並びにご家族に在所して頂き、グループホームの雰囲気を感じてもらおうと共に、お互いに情報交換をおこなっている。サービス計画については、カンファレンス時に電話で聞き取りをし生活の希望や要望を確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたってはご本人並びにご家族に在所して頂き、GHの雰囲気を感じてもらおうと共に、お互いに情報交換をおこなっている。サービス計画については、カンファレンス時に電話で聞き取りをし生活の希望や要望を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態や状況、ご家族の話を伺いながら、ご本人にとって必要なサービスについて検討・相談・アドバイスを実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する者として相談しながら本人主体の生活が送れるよう向き合っている。		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: 寿ノ家 グループホーム

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況や状態に応じてご家族へ協力・依頼を行なっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会制限等があり実施できていないが、定期的なお便りや電話でのやり取りをしている。	○コロナ禍でも、利用者個々の生活、行事の様子を写真を添えて家族に送ったり、馴染みの方の面会についても時間の制限を設けながら隣接の同法人特養の面会室を活用して、面会を実施する等の創意工夫があります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係については過剰な働きかけにならないよう生活の中でさりげない支援ができるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前は退居されたご家族が来所してくれていたが、コロナの関係で現在はできていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートを活用し本人やご家族の思いを生活に反映できるように取り組んでいる。	○所定のアセスメントシートにより、本人、家族、関係者等から意向や情報を把握し、担当職員とケアマネジャーが作成する仕組みがありました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを活用し本人やご家族の思いを生活に反映できるように取り組んでいる。 その中で本人の思いが生活に活かせるように取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスやモニタリング、ミーティングの場を活用し定期的に見直しや評価を実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族、職員が一緒になって話し合い、サービス計画を作成している。	○介護計画の策定については、アセスメントシートにもとづいて、担当職員、ケアマネジャーが家族カンファレンスで話し合い、管理者が確認して策定する仕組みになっています。モニタリングも定期的に適切に実施されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の状況をケース記録に記載することで状態変化や対応方法の変更等情報共有できるよう連絡ノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の要望や必要性に合わせて法人内サービスのサービスの協力依頼実施がおこなえる体制となっている。		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: 寿ノ家 グループホーム

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームのみで生活が完結しないように入居前の生活やご本人の希望や要望に応じて支援をしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診や緊急時等、主治医への状態情報並びにご本人の希望や要望に応じて支援を実施している。必要に応じてご家族と主治医の面談がおこなえるように連携を図っている。	○利用開始時に事業所の協力医療機関等も案内し、本人・家族の希望にもとづいて、主治医を決めています。現在、利用者8名が協力医療機関(甲州リハビリテーション病院)をかかりつけ医として利用し、事業所から近いということもあり職員が通院に付き添うことが可能なため、家族からも感謝されているようです。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期訪問はもちろんのこと、身体面の変化について都度、連絡連携が図れる体制となっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	治療が必要となった場合の入院については、協力病院からの支援を受けられる体制となっている。また、退院時には生活への支障が最小限となるよう病院と連携を図り協力を得ている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の看取り介護指針を策定して、ご本人・ご家族から同意を得ている。終末期のあり方については、ご本人・ご家族・職員・主治医・看護で方向性を明確にしている。	○所定の看取り介護指針により、利用開始時、重度化状態、終末期の段階に応じて、本人・家族の意向を把握する機会を設け、主治医や看護師、担当職員が状態を丁寧に説明して、本人・家族の意向をケア計画に反映させる仕組みがあります。また、終末期利用者の付き添いは家族等から希望があれば対応できるようになっており、これまで、ほとんどの利用者を事業所内で看取ったとの管理者コメントがありました。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人に委員会が設置されており、定期的に職員研修もおこなっている。また、緊急時や事故発生時の対応手順が明確化されており、委員を中心に定期的な評価・分析を実施している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中と夜間想定で防災訓練を実施している。また水害を想定した訓練もおこなっている。また法人に総合防災委員会も設置しており定期的な研修会も実施している。	○法人の総合防災計画にもとづいて、事業所の消防計画により、年2回の防災訓練が適切に実施されています。また、ハザードマップにもとづいて、水害対応訓練を実施していました。地域との応援体制や消防団との連携については、早急に組みみたいとの管理者コメントがありました。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	配属された職員には「介護の基本姿勢」や「寿ノ家 グループホームが目指す暮らし」について学んでいる。業務手順においてもプライバシー保護について明確化されている。	○プライバシー保護規程は整備されています。同性介護を目指しているが、スタッフ配置上で男性職員もあり、トイレや入浴介護等で異性介護にならざるを得ないとの管理者コメントがありました。プライバシー保護は、羞恥心や尊厳等権利擁護の基本でもあり、改善をお願いします。		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: 寿ノ家 グループホーム

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎朝、入居者と職員間で朝の挨拶(会)を開催している。その際本日の予定や体調等を双方で確認している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のひとりひとりの生活スタイルを把握出来るよう、アセスメントシートや記録から本人の生活を中心とした流れで支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基節に応じた衣類や理美容の援助をおこなっている。また、お化粧をする方には、その手伝いもしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の誕生日や行事食については希望を聞いて提供している。また、食事の材料準備(皮むき・切る・盛り付け)を一緒におこなっている。	○献立メニューは、担当職員が特養の管理栄養士のアドバイスを受けて作る仕組みになっています。特に行事食や誕生日の献立は、利用者個々の希望を取り入れたメニューになっています。食材の下準備作業や盛り付けなどは職員と利用者が一緒に行うようになっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事習慣や量・好みについては、情報の一覧表を活用し共有している。食事の状態に応じて法人の管理栄養士に相談できる体制となっている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状況や機能に合わせて口腔ケアの支援を実施し歯科への相談も出来る体制となっている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターンを把握し、個々のリズムに合わせて排泄援助をおこなっている。	○個々の利用者の排せつチェック表を活用して、排せつの自立支援に取り組んでいます。現在、オムツ使用は昼間1名、夜間4名でポータブルトイレ使用者は夜間2名との管理者コメントでした。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し個々の状態に合わせた対応をおこなっている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は夜間入浴の希望がないため実施していないが希望があればできる体制を整えていく。	○入浴は、週3回午前中、1日3名を基本としています。リフト浴により、職員1名が介助支援しています。以前は午後や夜間入浴もありましたが、希望がないため現在は午前中の入浴時間ということですが、希望があれば対応できる体制は整備していることを伺いました。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居時に使用していた物を持ち込んで頂けるよ依頼している。本人の生活習慣を重視し、安心して休めるよう取り組んでいる。			

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: 寿ノ家 グループホーム

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の管理をおこない、種類や副作用の確認をおこなっている。 個々の状態に応じて内服の支援をおこなっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人のペースに合わせて希望・得意なこと、出来る事、楽しみにしている事を把握し役割りをもって生活して頂けるよう支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は新型コロナで出来ていないが様子を見ながら、本人の希望に応じて実施していきたい。	○コロナ禍で、これまでどおりの外出は制限されていますが、30分程度の外出時間で近くの100円ショップや宝くじ店に出かける等の工夫をしています。家族アンケート調査結果では外出制限についての不安を訴える意見も多く、管理者からも本人の外出ニーズに適切に対応していきたいとのコメントがありました。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の意向に沿って金銭管理(支払等)の支援をおこなっている。 使用した際にはご家族へ報告をおこなっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各居室に電話が設置されており、外線電話もかけることができる。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間については季節感を感じられるよう工夫している。 温度・湿度・換気の調整もこまめにおこなっている。	○共用空間については、できるだけ自宅で経験してきた環境を再現することを目指して、十五夜には、ススキやお団子を飾り、クリスマスや特に年末年始には法人組織でお餅つきの行事を行い、家庭的な飾りや食事に配慮工夫していることを伺いました。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人が安心して過ごせる居場所づくりをおこなっている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるもの、使い慣れたものを入居時に持ち込んで頂けるよう依頼している。 本人の生活環境が変わらず安心して過ごせるように配慮している。	○居室は、エアコンが設置され、洗面台やトイレも整備され、部屋のレイアウトは、本人や家族の希望で自由に模様替えができ、自宅での暮らしに近い環境で安心して暮らせるように配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人が持っている機能が発揮できるように声掛けや見守りをおこない支援している。			